

## 編集後記

二〇一六年九月に第四号を刊行してから三年もの月日が経ってしまったが、ここによく第五号を完成することができた。早くに原稿を下された執筆者の皆様、辛抱強く見守ってくださった会員諸氏にお詫び申し上げますとともに、編集へのご協力に感謝申し上げます。

今号は浦西和彦先生の追悼特集を組んだ。本研究会の前身ともいえるべき貴司山治研究会でお世話になり、その後、本研究会メンバーが中心になって浦西先生所蔵資料を調査・撮影させていただくなど、直接の教え子ではない我々にも温かく接してくださいました。先生のご逝去はあまりに大きな痛手であるが、ご研究を後代に引き継ぐために何ができるかと考え、本特集を企画するに至った次第である。諸氏の論考からは浦西先生のお仕事の幅広さ奥深さはもちろん、研究者としての立ち居振る舞いやお人柄もうかがえ興味深い。ペテランの方々には浦西先生のお仕事を

ふり返るよすがとして、あるいは若い方々にはこれから先の長い研究の道筋を照らす光として本特集がお役に立てば幸いである。

\*

以下、編集長兼元代表として述べることをお許しいただきたい。

占領開拓期文化研究会は二〇一〇年六月に設立され、本誌創刊号を二〇一三年三月に刊行した。この間、創立時の常任幹事（伊藤純・友田義行・内藤由直・村田裕和）が、代表・副代表・編集長を分担しつつ、会員の皆さんの協力を得て会を運営してきた。

研究会活動は同志社大学・立命館大学を中心とすつつ年々活発になり、ここでの切磋琢磨を経て学会にデビューする人も増えてきた。私も記憶があるが、初めての学会発表は緊張というよりも恐怖に近いものがある。私の場合、同日に発表した一人の先輩だけが唯一の顔見知りだったが、それでもどれだけ心強かったことか。もし、この研究会が他大学の院生・研究者たちと交流するきっかけとなり、その結果、少しでも自信と勇氣をもって学会発表にのぞむことができたとなれば、創

立メンバーの一人として望外の喜びである。

一方、創立時からのメンバーの多くが就職などで各地に散り、京都を拠点とする活動を十分にバックアップすることが難しくなってきた。

そこで、二〇一八年度に常任幹事をのぞく古くからの会員諸氏に依頼して検討委員会を立ち上げてもらい、会の存続もふくめてゼロベースで議論してもらった。常任幹事はこの議論に関して、一切口を出さないことを申し合わせた。

一年後、幸いにも会は存続する、雑誌も引き継ぐとの報告を受けた。新常任幹事は泉谷瞬・池田啓悟・高木彬・福岡弘彬の各氏で、代表は泉谷さんとのことである。また編集委員会は、和田崇（編集長）、藤原崇雅、坂堅太、佐藤貴之の各氏と聞いている。二〇一八年度末をもって研究会は一つの区切りを迎えたわけであるが、今後も新しい体制のもとで充実した研究活動が展開されることを願っている。

以上のような経緯により、二〇一九年四月より新体制での運営がスタートしているが、

この第五号の発行は二〇一八年度の事業であるため、旧編集委員会が刊行までの責任を負うこととなった。本誌の奥付が「二〇一九年三月二〇日発行」となっているのはこのような事情によるものである。会員および読者諸氏のご了解を願う次第である。また特に、本誌掲載の藤原崇雅氏の論文「古典解釈の弁証法」は二〇一八年九月二七日に、資料紹介「武田泰淳「日本文学的命運」の紹介と翻訳」は同年一〇月二四日に受理したものであることを明記しておきたい。編集作業の大幅な遅れにより、早くに原稿を提出された藤原氏に多大なご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げる。(村田)

#### ▼研究会活動記録

##### 第23回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一六年八月二〇日(土)

会場 立命館大学衣笠キャンパス 清心館

501号教室

・岩本知恵「安部公房「赤い繭」——変形する皮膚、変形する身体認識」

・朴仁聖「中野重治「雨の降る品川駅」——

改造版への考察を中心に——」

・栗山雄佑「目取真俊『面影と連れて』論

——暴力への怒りを生み出す身体について

——」

・伊藤純「作家同盟第二回大会での〈芸術大衆化論争〉の再燃——新発見資料・貴司山治自筆提案書をめぐって」

##### 第24回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一六年十二月二七日(火)

会場 立命館大学衣笠キャンパス 究論館B

レゼンテーションルームB・C

#### 【研究発表】

・小玉健志郎「田沢稲舟「唯我独尊」論」

・坂堅太「戦後アヴァンギャルドのみた大衆社会——「記録芸術の会」の〈大衆〉観について——」

#### 【合評会】

・坂堅太著『安部公房と「日本」植民地／占領経験とナショナリズム』(和泉書院)

(コメンテーター)岩本知恵、内藤由直(著者)坂堅太

##### 第25回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一七年三月二五日(土)

会場 ウィングス京都 ビデオシアター

・八原瑠里「頭ならびに腹」論」

・秋吉大輔「受験雑誌『高3コース』『高1コース』における詩行為——寺山修司の「文芸」欄」

・藤原崇雅「武田泰淳『風媒花』論——J・P・サルトル「自由への道」の影響をめぐって——」

・泉谷瞬「皆川博子「トマト・ゲーム」論」

##### 第26回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一七年八月二七日(日)

会場 同志社大学室町キャンパス 寒梅館6

階大会議室

・坂崎恭平「永井荷風『冷笑』論——プレテクストの検討を手がかりとして——」

・伊藤純「物語」と「読者」を繋ぐものについて  
の考察——中野重治「春さきの風」、小林多喜二「テガミ」、村上春樹「螢」から  
・中井祐希「横光利一「厨房日記」論」  
・加藤大生「(パン・フォーカス)の歴史認

識——花田清輝「画人伝」論

一回経過報告

・林麗婷「小田嶽夫『望郷』試論」

第27回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一八年一月二一日(日)

会場 立命館大学衣笠キャンパス 清心館

503号教室

・ヴレタ・ダニエル「武田麟太郎「ある除夜」について」

・藤原崇雅「武田泰淳『中国忍者伝 十三妹』における白話小説の受容」

・轟原麻美「〈明治百年〉における小説と歴史学——司馬遼太郎『坂の上の雲』論」

第28回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一八年三月二五日(日)

会場 同志社大学今出川キャンパス 弘風館

47番教室

・奥村華子「語／騙られる炭鉱——井上光晴『虚構のクレーン』を中心に」

・井上大佑「ゲストからキャストへ——筒井康隆「ベトナム観光公社」論」

・伊藤純「『プロ運動資料集を読む会』の紹介——山田清三郎アンケートを読む会第

第29回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一八年八月二六日(日)

会場 立命館大学衣笠キャンパス 究論館ブ

レゼンテーションルーム

・佐藤貴之「伊藤整「鳴海仙吉」のアイロニー——「得能五郎」との関係から」

・松井佑生「吉井勇日記を通して見る占領期京都」

・栗山雄佑「〈証言〉と〈ノイズ〉をめぐる——沖縄文学における性暴力の記憶」

第30回占領開拓期文化研究会

日程 二〇一八年二月二九日(土)

会場 同志社大学室町キャンパス 寒梅館6

階会議室

・王洋「阿部知二の〈上海もの〉における新女性——田村俊子・関露・雑誌『女声』との関連性を手がかりに——」

・森祐香里「池田みち子「腐肉」論」

・倉地悠「吉行淳之介「決闘」に見る病いの実体化のプロセス」

## 占領開拓期文化研究会会則

### 総則

第一条（会の名称）

本会は占領開拓期文化研究会と称する。

第二条（会の本部）

本会は別表に記載の代表幹事の所属研究室内に所在地を置く。

第三条（会の目的）

本会は昭和期日本とその周辺地域の占領と開拓に関わる芸術・文化の研究を目的とする。

第四条（会の事業）

本会は第三条の目的を達するために次の事業を行う。

一、研究発表会の開催。

二、機関誌の刊行。

三、その他必要と認められる事業。

### 会員

第五条（会員の資格）

本会は第三条の目的に賛同する個人および団体の会員をもって構成する。

第六条（会費の納入）

会員は付則に定める会費を負担するものとする。

第七条（会員の活動）

会員は本会の事業に参加し、機関誌の配布を受ける。

### 役員

第八条（役員）

第四条の各事業を遂行するために次の役員をおく。

代表幹事 一名

常任幹事 若干名

編集委員 若干名

研究会幹事 一名

監査 二名

第九条（役員任期）

役員任期は二年とする。但し研究会幹事は研究発表会ごとに改選する。重任および兼任を妨げない。ただし監査の兼任は認めない。

第一〇条（役員選出）

役員は総会において選出する。

### 総会

第一条（総会）

総会は年一回開催し、当該年度の事業および翌年度の事業その他の事項について審議決定する。但し必要に応じて代表幹事は臨時総会を招集することができる。

### 会計

第一条（経費）

本会の経費は会費・投稿料・寄付金・その他の収入による。

第一条（会計報告）

会計報告は総会において行う。

第十四条（会計年度）

本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月末日に終わる。

会則の変更

第十五条（会則の変更）

会則の変更は総会において行う。

設立年月日

第十六条（設立年月日）

本会の設立年月日を平成三二年六月一日とする。

付則（略）

「この会則は二〇一三年九月一日より施行する。」

## フェンスレス 第5号

2019年3月20日発行

編集兼  
発行人 占領開拓期文化研究会代表 村田裕和

発行所 北海道教育大学旭川校 村田裕和研究室内  
占領開拓期文化研究会

(〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目)

ホームページ <http://senryokaitakuki.com/>

ブログ <http://senryokaitakukibunka.blog.fc2.com/>

メール [senryokaitakukibunka@gmail.com](mailto:senryokaitakukibunka@gmail.com)

印刷所 洛西プリント社